

「会津の特別支援教育を語る会」を開催しました

パネルディスカッション形式での討論会

＜助言者＞ 前帝京科学大学教授 滝坂 信一氏 ＜司会＞ 会津教育事務所指導主事 二瓶 睦氏
＜パネリスト＞ 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校から各1名（特別支援教育コーディネーター等）



8月3日（水）河東学園小学校にて

地域の方からは「子ども達のために、私たちにも何かできることはありますか。」と、温かな気持ちを聞かせていただき、保護者の方からは、親としての思いや、子どものために連携・協力していくことの大切さを話していただきました。

会全体を通して、子ども達を取り巻く支援の輪が広がっていることを実感し、私たちは学校として地域に対してできることや、やらなければならないことを改めて考える大切な機会となりました。

当日、参加者の方にアンケートに協力していただきました。様々な感想や意見が寄せられましたのでいくつか紹介します。

助言者の一言、障がいのあるなしで分ける方向に動いていないか、共に生きるということにならないのではという言葉にはっとした。専門性はとても大切だけれど、一緒に地域で生きていくという視点を忘れてはいけないと思った。

改めて障がい者支援に対して考えることができた。幼→小→中→高まで支援をしていく根本的なことを一から考え直していきたい。

それぞれの学校で取り組んでいる内容について一例を知ることができた。各校での取り組みを共有したり広く発信したりできる機会としてとてもよい会だと感じた。最後の滝坂先生の指摘にはっとさせられた。本来考えるべきことはそこにあると考えさせられた。

多くの方のご参加ありがとうございました。今後も会津地区の特別支援教育について地域の方々とともに考えていく機会を作っていきたいと思いますので、ご協力よろしくお願ひいたします。



すべての子どもたちが地域で共に学び、
共に生きるために・・・

各パネリストから、それぞれの学校での取り組みや現状について発表があり、子ども達にとってより良い支援の在り方や環境づくりについての意見交換をしました。

参加者は160名を超え、教員だけでなく、教育委員会や保護者、福祉サービス事業所、さらには、日頃から地域で子ども達とかかわっている民生児童委員の方々も参加してくださいました。



会場からも意見をいただきました